

## 看護学生が伝える「いのちの授業」

2月25日(火)に関東学院六浦小学校5年生を対象とした「いのちの授業」を行いました。このプログラムに興味、関心をもった本学部の1年生12名の有志が集まり、プログラムの企画から始めました。学生は、講義やクラブ活動などの合間をぬって、主体的に集まり、話し合いを進めてきました。そして、春休みにリハーサルを重ね、本番に挑みました。当日は、看護棟の実習室を使用し、2コマの授業をしました。

### 【1時間目：講義】

いのちのはじまり  
胎児の成長から出産まで  
私が生まれる確率  
成長を振り返る  
誕生を待つ家族の気持ち

### 【2時間目：体験】

ぴかぴか手洗い体験  
赤ちゃんの抱っこ体験  
妊婦体験  
沐浴体験  
心音聴取体験

講義では、児童にわかりやすく伝えられるように工夫をし、卵子や精子などの教材を新たに作成しました。体験では、赤ちゃんに触れ合う機会の少ない児童に新生児モデルを用いて、抱っこや沐浴をしました。子どもたちは、初めての沐浴で緊張している様子でしたが、徐々に慣れ楽しそうに実施していました。また、学生と交流するなかでのびのびと授業を楽しんでくれたようです。看護学生も、初めて体験する授業でしたが、自分の言葉で伝えられるように直前まで練習をし、本番では練習の成果を発揮することができました。最初は、緊張で表情が硬かった学生も、次第に児童の反応に答えながら、一緒に授業を楽しむことができたようです。児童だけでなく、授業を運営した学生もこの授業を通して、「いのち」について考える機会となりました。



### <いのちの始まりから成長まで>

胎児モデルを実際に抱っこしてもらい、その重さや大きさから、いのちの重みを感じてもらいました。



### <誕生を振り返る>

学生の子どもの頃の写真を見ながら成長を振り返りました。子どもたちの「似てるー」の声に、学生も思わず笑顔でした。



### <体験>

～感想カードより～

「赤ちゃんがおなかの中において、最初は針で穴をあけた大きさで、1ヶ月たったら大豆の大きさでびっくりしました。」

「赤ちゃんが無事に生まれるのは、ほんのちょっとの確率なので、ぼくたちはそのちょっとの確率で生まれたと思うとすごい奇跡だなと思った。」

「赤ちゃんはとても重かった。首がぐらぐらだったのにびっくりだった。お母さんたちの大変さがよくわかった。もっと赤ちゃんのことを知りたいと思った。」